



市長 からの 手紙

61 市債残高について

川越市の、平成28年3月末現在における一般会計の市債(借金)の残高は、約983億円です。私が市長に就任した平成21年の3月末における一般会計の市債残高は約811億円ですから、この7年間に借金が約172億円増えたことになります。

この増加の主な要因は、平成21年度に完成した資源化センター(新しいごみ焼却場)と平成26年度末に完成したウエスタ川越です。

前者は施設建設事業費約193億円のうち約133億円が市債です。また、ウエスタ川越の川越市所有部分の建設事業費約94億円のうち約79億円が市債です。

規模の大きい公共施設の建設には多額の資金が必要ですが、これを、その年度の歳入(収入)で全額賄ってしまうと、その年度は他の多くの事業ができなくなってしまいます。また、公共

施設は長期にわたって使用するものですので、建設資金を市債の償還を通じて将来世代にも負担してもらうことは、公平な負担ということになり、どの地方自治体でも活用しています。

また、市債残高の約3分の1を占める臨時財政対策債も増加要因の1つです。この臨時財政対策債は、本来地方交付税として国から交付される金額のうち一定部分について地方自治体が借入れを行い、その元利償還金の返済が後年度に交付税措置されるというものです。言い換えると、国が地方交付税として地方に渡すべき金額の一部を、地方が市債という形で調達することとし、その返済分を後年度に交付すべき地方交付税の中に含めて地方に配分するというものです。

市の平成28年度一般会計の予算規模はおおよそ1,110億円で、市債残高が一般会計規模に近づいている状況です。市債残高の増加は、公債費(借入金の返済費用)の増加にもつながります。一方で、公共施設の老朽化が進んでおり、その改修や更新にも市債の活用が見込まれるため、今後はこれまで以上に計画的な市債の活用に向けていく必要があると考えています。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 19

星空観察の集い

環境政策課 回224・5866

ふと夜空を見上げたとき、川越ではいくつ星を見つけることができるでしょうか。

環境政策課では年2回、児童センターこどもの城で「星空観察の集い」を開催しています。夏と冬の美しい星空を観察することで、大気環境の状況を調査し、澄んだ空気を守ることの大切さを考える取り組みです。

夏の回は8月26日に開催し、34人が参加。参加者は、プラネタリウムで楽しみながら星の名前や伝説を学び、講師に星座早見盤や双眼鏡の使い方をおまわりました。そしていよいよ屋上で、双眼鏡を使って星を観察。あいにくの曇り空でしたが、ベガやアルタイル、デネブなどのプラネタリウムで見た星を見つけることができました。望遠鏡室では、高性能な天体望遠鏡で土星を観察し、「土星がとてもしっかり映っていて、手で触れられそう」「土星がこんなにきれいだと初めて知った」と参加者から歓声があがりました。



冬の回は、来年1月末ごろに開催する予定です。美しい星空を未来に残すために、私たちに何ができるのか。星空の観察を通して、もう一度考えてみませんか。